

イノーバDXアップなら、 田植えと同時に 除草もできる。



バイエル
イノーバDXアップ
1キロ粒剤51

稲発酵粗飼料
(イネWCS)に
使用可能

もちろん
田植の後でも
使える！！

- 田植同時に最適
- 抵抗性雑草に高い効果
- 田植え同時から
ノビエ2.5葉期まで使用可能

水稲用初・中期一発 除草剤

楽に、一発。



SU抵抗性雑草 + ノビエに効く



SU抵抗性
コナギ



SU抵抗性
ホタルイ



SU抵抗性
アゼナ



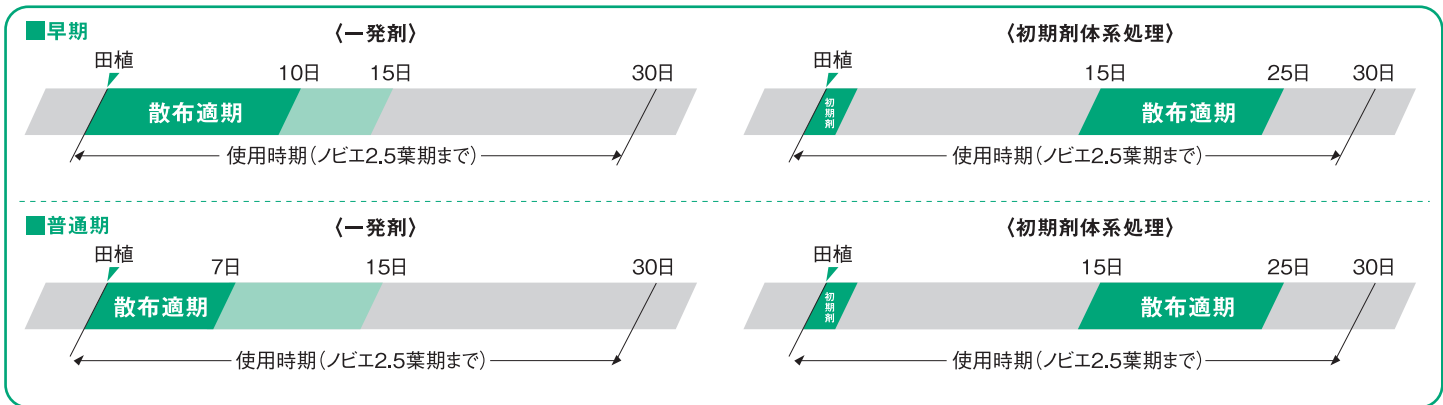
ノビエ



適用雑草と使用方法 (2018年1月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り 使用量	総使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水 稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土～ 埴土	1kg	ダイムロン 3回以内 (育苗箱散布は 1回以内、 本田では 2回以内)	本剤のみ 1回 フェントラザミド 1回 ブロモブチド 2回以内 ベンスルフロン メチル 2回以内	田植同時 散布機で 施用
	移植直後～ ノビエ2.5葉期ただし、 移植後30日まで	湛水散布					全域 (北海道、 東北を除く)の 普通期及び 早期栽培地帯
直播 水 稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期ただし、 収穫90日前まで	壤土～ 埴土		ダイムロン 2回以内		全域 (北海道、 東北を除く)

使用時期 (本剤の使用時期はノビエ2.5葉期までですが、散布時期の目安として移植後の日数で示しました)



注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布して下さい。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出来ますので、必ず適期に散布して下さい。ホタルイ、ミスガヤツリは2葉期まで、ウリカワは2葉期まで(但し、北陸は発生始期まで)、ヒルムシロは発生期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、セリは再生前か再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期です。クログワイ、オモダカは発生期間が長く、遅い発生のもめまでは、十分な効果を示しませんので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用して下さい。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布して下さい。また、極端な浅水や深水での使用は避けて下さい。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないで下さい。また、入水は静かに行ってください。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化および植付作業は丁寧に行ってください。未熟有機物を使用した場合は、とくに丁寧にしてください。
- 以下の条件では薬害を生ずる恐れがありますので使用を避けて下さい。
 - 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
 - 軟弱苗を移植した水田
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 直播水稲に使用する場合は、薬害をさけるため稲の1葉期以降に使用し、稲の根が露出している時の使用はさけて下さい。
- 著しい多雨条件下では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえて下さい。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しないで下さい。
- 本剤は、移植前に生育したミスガヤツリには効果が劣りますので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用して下さい。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがありますので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分に注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。